

第237回 令和8年5月27日（水）

## 「投票について」

明治時代に命をかけて選挙権を得ようとした人々がいました。このころに起こった自由民権運動は国民が政治に参加して自分の権利を確立するための運動でした。

自由民権運動の主な目的は主権在民（国民が政治の主役であること）の実現、国民が選挙権を得て自らの代表を選ぶ仕組みの確立、そして憲法の制定と国会の開設を求めることでした。

この運動は江戸時代から続いてきた封建的な統治体制から脱却し、近代国家として発展するための重要な一歩でした。板垣退助や江藤新平といった人物が中心となり、国会開設の要求や言論の自由の拡大を訴えました。

紆余曲折がありましたが国会が開設され、国民が選挙に参加できる制度がつけられました。政治における「投票」の重要性を国民が感じ、最初は一部のしか投票できない制限選挙でしたが1925年には普通選挙が実施されることとなります。

投票は、国民が自分たちの意見や希望を政治に反映させる最も直接的な手段です。自分の一票が代表者を選び、政策に影響を与えます。民主主義は、国民が主権者であることを基盤とします。そのため、投票は国民が政治参加する手段として不可欠です。1945年には女性にもようやく選挙権が与えられました。

選挙とは自分の一票で社会を変えられる力を行使すること。これは過去の自由民権運動で戦い、権利を得た先人たちの努力を活かすこととなります。投票をしても何も変わらないと思うかもしれませんが、確かに急激に変化することはないかもしれませんが、投票は10年後、20年後の日本の未来を大きく左右します。

18歳になると選挙権が与えられます。選挙に行くのが面倒と思う人もいるかもしれませんが、どんな未来にしたいのか、投票するにあたり立候補者や政党について調べることは自分の見識を広げることにもつながります。

憲法改正など手続き上国民投票が必要なことも近いうちにあるかもしれませんが、どこに票を入れるかは個人の自由です。自由だからこそ、しっかり自分の考えをもって投票権を使うべきだと思います。

未来の若者のために何が最適なのか、しっかりと考えてください。